

# “シャキッ”と新聞



今月の“シャキッ”とする週間  
12/14(月)～12/18(金)

2015. 12. 11  
西中PTA執行部 発行  
責任者 高橋 敦志



12月も半ばとなり、今年もあと残りわずかとなりました。月日が経つのは早いもので、5月に今年度のPTA活動をスタートして、すでに8ヶ月が経ちます。その間、会員の皆様・地域の皆様にはたくさんのご協力をいただきまして、本当にありがとうございました。また、来年もどうぞよろしくお願ひいたします。

さて、西中PTAでは来年度のPTA役員の選考活動がスタートしています。執行部役員になると、学校での子どもの様子が良く分かることはもちろん、担任の先生だけではなく校長先生や教頭先生、地域の方々ともお話する機会が増え、直接自分の子どもに関わる情報の量がぐんと増えます。また、教育委員・教育委員会事務局の方々や近隣の高等学校の校長先生から直接お話を伺える機会もあり、親としてとても勉強になります。子どもたちの中学校生活がより良いものとなるよう応援するPTA活動です。選考委員会がお伺ひした際には、是非とも前向きに考えていただきますよう、ご協力よろしくお願ひいたします。



## ～教育懇談会～

11月17日(火)教育センターにて教育委員会事務局との懇談会に参加しました。

全体会では教育長より、27年度の伊丹の子どもたちの学力や体力の現状と対策についてのお話を資料を交えて詳しくしていただきました。学力はほぼ全国平均ですが、体力面が弱く、より詳しくデータを分析して子どもたちの学力と体力ともに伸ばすべく努力しますとの事でした。

中学部会に分かれてからは、今後道徳教育が導入されるにあたり、市の方針等をうかがいました。現在心の教育として各学校ごとに色々な角度から取り組んでいます、道徳も基本はコミュニケーションという事からさらにコミュニケーション力をつけるべく進めていきたいということでした。

また、近年退職される先生方が増え、若い先生方だけでは道徳や心の問題にどれだけ向き合えるのか不安もあるという声もあり、現在でもOBの先生方が各所、随所で尽力してくださっていますが、その活動方法のさらなる細部化や人数増をお願いしました。

いただいた資料をPTA室に置いてありますので、興味がある方はご覧ください。

平成28年度最初の“シャキッ”とする運動は1/18(月)～1/22(金)です。

朝のあいさつ運動は8:10頃～8:30頃まで正門付近で行います。新年を迎え最初のあいさつ運動です。子どもたちが寒さに負けないよう、応援しましょう！



## ～すこやかネットいななの&すずはら 家庭教育講演会～

講師 教育評論家 親野 智可等先生

11月14日に親野智可等先生をお迎えし、『叱らなくても子どもは伸びる』～目から鱗の子育てと家庭教育～というテーマでお話していただきました。小学校の先生をされていたこともあり、実体験を基にした興味深いお話を聞くことができました。

子どもに共感する大切さや、親が叱ることに逃げるのではなく、おおらかに子どもを受け止めることによって良い循環が生まれていくといったお話など、余裕をもって子どもと接することの重要性を感じさせられました。男の子脳・女の子脳があるなど、まだまだ話も尽きない中終了しましたが、いつもとは違った視点で子育てを考えさせられた講演会でした。

### 会長のひとりごと

～ 日本語の力（言霊） ～



「今年の冬は暖冬になるでしょう。」そんな予報が出されている今年の冬。12月に入って気温も下がってきました。暖冬と言われても寒いものは寒いですね。みなさん体調管理をしっかりとしましょうね。

先日の12月5日、「平成27年度兵庫県PTA中央大会・PTCA全県研究大会」に出席するために、丹波市の丹波の森公苑に行ってきました。当日は兵庫県下各地のPTA関係者が集まり、優良な取り組みを行ったPTAの発表などが行われました。

大会行事の催しの中に、兵庫県小野市出身で、1500mの日本記録保持者で北京オリンピックに出場した、小林祐梨子さんの講演会がありました。「人との出会いが人を変える」との演題で興味深い講演内容でした。特に心に残っている内容は、小林さんは小学生の頃は走るの早い方だったけれども運動が苦手勉強も苦手だったそうです。そんな小学校の卒業文集に、将来の夢を書く事になり、その時には特にはっきりとした夢が思い浮かばなかったものの、意を決して、大きい夢、目標を書いたとのことでした。「オリンピックに出ます。そのためには日本一になります。」そんな内容だったと。そして小林さんはこう続けました。「文字に書くことで、夢に向かって何をすればいいの自分自身が理解できます。夢は言葉にする、文字にすることで叶う夢になります。それには、最大目標、中目標、小目標を文字にすることです。」

最大目標は、将来、1年後、自分はどうなっていたいかという事を書き、中目標は、その最大目標を実現するためには何をするのかを書き、小目標は、中目標を実現するために、日々行うさらに具体的な小さいことを書くということでした。この講演を聞いたとき、私が以前から言ってきた、「日本語には魂がある。言霊がある。」と結びついたような気がしました。この目標を文字にすることは、子どもたちだけではなく、大人にも使える夢を実現するための素敵な方法だと感じました。

日本語には不思議な力があると思います。ネガティブなこと決して言わない、ポジティブ、前向きな言葉を発するだけで前に進めると信じています。

西中の3年生は来年の春に向けて、2年生、1年生は今後の部活や勉強のために、最高のポジティブな最大目標を書き、その実現に向かって頑張ってもらいたいと思います！

西中のみんな頑張れ～！！

(高橋敦志)